

大潟村連携教育を支える コミュニティ・スクールの推進

地域ぐるみで子どもの「学び」・「育ち」・「心」を支えます



未来を担う
子どもたちのために



2024年3月

大潟村教育委員会



学び

「考える力」「表現力」「意欲的に学ぶ態度」



今年度の重点

1 よく聞いて、考えて、関わり合う活動の充実



自分の考えを友だちに伝える活動

2 読書活動による表現力の土台づくり



図書委員による読み聞かせ

3 子ども一人一人が意欲的に学ぶ(遊ぶ)活動の充実



手作りウォーターバッグの感触を楽しんで

◆成果

1 よく聞いて、考えて、関わり合う活動の充実

- ・保育者との信頼関係が深まることで、自分の気持ちを表情やしぐさ、言葉で伝えられるようになった。
- ・「聞き方・話し方」強調週間を設けることで、話す側だけでなく、聞く側の意識の変容も見られた。
- ・ICTを活用することで、他者と協力して学習を進めることができ、生徒の学びの質が高まった。

2 読書活動による表現力の土台づくり

- ・図書ボランティアによる読み聞かせや、中学生による小学校低学年への読み聞かせ、スタンプラリー、ピブリオバトル、ポップスコンテストなどの活動により、様々な読書に親しむことができた。
- ・絵本の貸し出しの再開により、絵本の読み聞かせを通して家庭で親子が触れ合う機会となり喜んで絵本を見るようになった。
- ・地域や家庭と連携しながら読書活動を充実させることができた。

3 子ども一人一人が意欲的に学ぶ(遊ぶ)活動の充実

- ・発達や育ちに合った手作り玩具や興味に合わせた素材や道具を用意し、園児がやってみようとする環境をつくることができた。
- ・子どもの興味・関心に基づいた活動や、課題解決の方法の選択など、自分に合った方法で学習を進めていけるような授業づくりができた。



将来の自分と地域の未来について考える



貸し出し絵本をじっくり選び中



課題別グループで情報収集、整理

◆来年度に向けた改善点

1 よく聞いて、考えて、関わり合う活動

- ・子どもの発達段階に応じた、目的意識や相手意識をもった聞き方・話し方を取り入れた活動を継続して実施する。
- ・教師のコーディネート力の向上を目指す。

2 読書活動による表現力の土台づくり

- ・発達段階に応じた本の選び方ができるよう、新刊コーナーやお勧めの本の紹介など、読書の幅を広げるための工夫を継続して実施する。
- ・読み聞かせの大切さについて、家庭への発信を継続する。

3 子ども一人一人が意欲的に学ぶ(遊ぶ)活動

- ・ICTを有効に活用し、課題やめあて、見通しをもたせ方を工夫していく。
- ・子どもの意欲を高める工夫、粘り強く取り組めるような活動の工夫を考える。

◆重点項目の継続

- 「1 よく聞いて、考えて、関わり合う活動の充実」「2 読書活動による表現力の土台づくり」
- 「3 子ども一人一人が意欲的に学ぶ(遊ぶ)活動の充実」

育ち

「規範意識」「健康・安全意識」「主体的な行動力」



今年度の重点

1 園児・児童・生徒との信頼関係を深め、互いによさを見つけ、認め合える関わり方の充実



縦割り班顔合わせ

2 心身の健やかな成長を促すための手立ての充実と家庭への発信



親子で運動遊び

3 家庭・地域とともに気持ちのよいあいさつの推進



生活委員会による朝のあいさつ運動

◆成果

1 園児・児童・生徒との信頼関係を深め、互いによさを見つけ、認め合える関わり方の充実

- ・温かな見守りの中で安心し、自分の欲求や気持ちを十分に表現したり、学年を越えた関わりや校外生徒との交流を通して、互いによさを見付けたりすることができた。
- ・行事等に一人一役で取り組み、平等感や自己有用感を高めることができた。

2 心身の健やかな成長を促すための手立ての充実と家庭への発信

- ・発達や成長、または自分のしたい運動遊びを楽しみながら体を動かしたことにより、体力、柔軟性の向上につながった。
- ・中学校では、スクールカウンセラーを講師に招いて授業をしたり、ストレッチ集会を定期的で開催したりして気持ちの安定やリフレッシュを図ることができた。生徒、保護者の両方に生活アンケートを行い、問題の早期発見や情報の把握をすることができた。
- ・情報機器との向き合い方についてPTAの講演等で、保護者や子どもに向けた情報発信ができた。

3 家庭・地域とともに気持ちのよいあいさつの推進

- ・年長児や委員会でのあいさつ運動、地域の方とのあいさつ運動を行い、明るく元気なあいさつする姿が見られた。
- ・あいさつで自ら声を出そうとする子どもが増え、散歩や登校時に会った地域の方や、来校者にも進んであいさつを行うことができた。



地域の人と笑顔であいさつ



マラソン大会に向けてのランランタイム

◆来年度に向けた改善点

1 園児・児童・生徒との信頼関係を深め、互いによさを見つけ、認め合える関わり方の充実

- ・相手の立場で考えて聞くこと、話すことの経験を積み重ねていく。

2 心身の健やかな成長を促すための手立ての充実と家庭への発信

- ・“(心身の発達や成長、必要性に応じて) 計画的かつ継続的に体力・柔軟性の向上を図っていく。”
- ・スマホなどの情報機器の使い方について、家庭と連携しながら進めていく。

3 家庭・地域とともに気持ちのよいあいさつの推進

- ・家庭・地域と連携し、互いに「気持ちのよいあいさつ」となるよう取り組む。
- ・発達や年齢に応じて「気持ちのよいあいさつ」、「場面や相手に応じたあいさつ」について考える機会をつくっていく(道徳や特活等において)。



井川義務教育学校との合同PA研修

◆重点項目の見直し

- 「1 園児・児童・生徒との信頼関係を深め、互いに認め合い、相手を思った言動につながる関わり方の充実」
- 「2 心身の健やかな成長を促すための手立ての工夫・継続と家庭への発信と連携」
- 「3 家庭・地域とともに互いに気持ちのよいあいさつの推進」



「優しい心」「たくましい心」「ふるさとを愛する心」



今年度の重点

1 思いやりの場を大切に
した交流活動の推進



なかよし交流会～だるまさんが転んだ

2 期待や信頼が意欲につな
がり、成功体験が自信に
つながる場の設定



心を一つに～総体激励会～

3 地域とつながり、地域の
よさを感じ、よさを発信
できる体験活動の充実



ハーモニカ演奏～子ども園

◆成果

1 思いやりの場を大切に
した交流活動の推進

- 安心できる環境が心の安定の土台となり、個々の優しさにつながった。
- 縦割り班や異学年の交流活動では、優しさや責任感をもって接することができた。
- 学校行事は縦割り班で実施し、お互いの立場で認めたり励ましたりすることができた。

2 期待や信頼が意欲につな
がり、成功体験が自信につな
がる場の設定

- 異年齢と一緒にいる行事により、あこがれや意欲、達成感が生まれた。保護者の励ましや、満足感や自信にもつながった。
- 各交流では、担当者同士が支援や指導について確認を行い、子どもたちの活躍の場を設定した。自分でやることを考えながら活動できた。
- 全ての行事でめあてを明示し、振り返りを行った。意欲や自信につなげることができた。

3 地域とつながり、地域のよ
さを感じ、よさを発信でき
る体験活動の充実

- 地域の方との直接体験活動では、子どもの主体性を重視して進めることで、豊かな感性や表現力を育むことができた。
- 様々な活動で、支援、指導等、地域の方に協力してもらうことができた。子どもたちもとても感謝している。
- 総合的な学習の時間の課題解決学習では、地域素材に関する内容が多く、まとめたことを全体発表会で伝えることができた。



体育祭～縦割り班で作戦会議



赤ちゃんかわいいね



一次入植者の方の講話

◆来年度に向けての改善点

1 思いやりの場を大切に
した交流活動の推進

- 交流活動の推進と、子どもを認める、子ども同士認め合う場が必要。交流活動のねらいを明確にし、思いやりある言動につながるようにする。

2 期待や信頼が意欲につな
がり、成功体験が自信につな
がる場の設定

- 子どもの意欲の支えとなる声掛けや支援を大切にする。子ども一人一人が主体となる体験活動の設定をする。ポジティブシンキングによる振り返りで意欲と自信を高める。

3 地域とつながり、地域のよ
さを感じ、よさを発信でき
る体験活動の充実

- 子どもたちの声を地域に伝える。校内に留めず地域へも発信する。地域に対する感謝を表す場を設定する。

◆重点の見直し

- 「1 一人一人の思いが生きる交流活動の推進」「2 一人一人の活躍の場がある交流活動の推進」
- 「3 一人一人が地域のよさを学び、よさを感じ、よさを伝える体験活動の充実」

大潟村連携教育一斉公開保育・授業を参観 R5.12.19

～こんな意見・感想がありました～



こども園の保育を参観して

- 子どもたちが生き生きして、表情がとてもよい。
- 友達と仲良く遊びながら、協力して楽しんでいる様子が印象的だった。
- 子どもに応じて、声掛け、言葉掛け、声の大きさを変えているので、素晴らしいと思った。
- 一人一人の子どもの思いを大切に支援している様子が見られた。
- 手作りのものがたくさんあり、先生方の頑張りに感謝。
- 季節に合わせたわくわくするような飾り付け、子どもたちの作品に幸せな気持ちになった。



小学校の授業を参観して

- 自分の考えをしっかりともち、理解している子どもが多い。
- 子ども同士で意見を伝え合っている姿があり、よかった。
- 学習課題を子どもの言葉を使って設定していた。子どもの考えを大切にしている姿勢が見られた。
- TT、指導者の連携がとれていて子どもたちの考えを生かしていた。
- タブレットを上手に使いこなしていた。文字入力より、タッチペンを使用した方がスムーズ。
- 提示された図や、板書がシンプルですっきりしているので分かりやすいと感じた。



中学校の授業を参観して

- 男女関係なく、生徒同士で積極的に教え合っている姿がよかった。
- 自分の考えを進んで発言する生徒が多く見受けられた。
- 生徒への問い掛けで、理解度を確認しながら授業を進めていた。
- 生徒の発言を否定せず、答えまで導こうとする言葉の掛け方がよかった。
- どんな授業もタブレットを使用していること、マイク付きヘッドフォンが全員にあることに驚いた。
- タブレットの文字の小ささ、机とイスの高さが気になった。

大潟村連携教育研究協議会に参加

一斉公開保育・授業参観のあと、各校園の先生方の協議に学校運営協議会委員も加わり、「学び」「心」「育ち」各班の取組の成果と課題、園小中の交流や今後の取組について意見交換を行いました。



今年度もあいさつ運動とながら見守りを実施



学校運営協議会発足以来継続している、「あいさつ運動」と「ながら見守り」を今年度も行いました。学校運営協議会委員を二つの班に分け、朝7:30から校庭周辺6箇所で実施しました。農繁期を避け、計12回にわたり行いました。回数を重ねるごとに、子どもたちの方から積極的なあいさつが聞かれるようになり、学校運営協議会委員と元気にあいさつを交わす様子が見られました。



こども園部会・小学校部会・中学校部会を実施

～各部会の意見、質疑 応答を一部紹介します～

○こども園部会

1回目 R5.7.12 2回目 R6.2.6

プールバッグ、水筒、ロッカーなど整理・整頓ができていて「しつけ」ができていますと感じました。園・小・中の最初の一番重要なところでしっかり指導されていると感じます。

園の雰囲気がよく、保育室から園庭の緑が見えるところがよいですね。虫などの生き物にたくさん触れてほしいと思います。



職員の体制はどうなっていますか。
→0歳児は子ども3人に対して保育者が一人、1歳児は子ども6人に対して保育者が一人となっていますが、大潟こども園ではそれ以上の保育者で対応ができています。

個の発達（月齢など）の差があることを踏まえてどんな保育を行っていますか。
→一人一人に応じた保育を心掛けています。苦手なことは、遊びの中で発達を促せるようなものを取り入れています。刺激し合ったり励まし合ったりしながら集団の中で育つものがあります。

○中学校部会

1回目 R5.7.5 2回目 R5.12.13 3回目 R6.1.23

(授業参観をして) TTの先生とのデモンストレーションや、映像などを導入することで生徒の興味を引く工夫がたくさん見られました。

朝のあいさつ運動をしていて、受け答えが元気でとてもよくなったと思います。一方で、天気の悪い日に送迎が多いのが気になります。



勤労体験と職場体験はどのような内容ですか。
→勤労体験は、家や友人宅の田植えの手伝いで、職場体験は園、セブンイレブン、消防、生態系公園などの村内施設で実際に働く体験をします。秋田市で宿泊体験と兼ねての実施もありました。

タブレットの活用で姿勢が悪くなったり、目が悪くなったり、ノートづくりの個性がなくなったりしていませんか。
→タブレットの影響はあるかもしれませんが、実際、学力に効果は出ています。ノートづくりとタブレット活用は並行して進めていきます。

○小学校部会

1回目 R5.7.19 2回目 R6.1.24

(道徳の授業を参観) 意見が活発に飛び交うよい授業でした。先生が指名するだけでなく、子どもたちで意見をつなぐ手法があつてよいと思いました。

中学生の小学生に対する図書の読み聞かせが、双方にとってよいと感じました。逆に小学生が中学生に図書の紹介をするのも、小学生にとって少し背伸びをする活動となつてよいのではないかと思います。



タッチペンを使っている子どもと、タイピングで入力している子どもがいましたが、何かきまりはあるのでしょうか。
→きまりはなく、使いやすい方を選択しています。ローマ字入力を最終的な目標としており、タイピングスキルにはそれほど重きを置いていません。

祖父母参観の日などはありますか。
→PTAの際は各家庭何人来ても構わないので是非来ていただきたいと思います。「祖父母」と銘打っていないとなかなか行きづらいという声も承知していますので呼び掛けていきたいと思っています。

大潟村連携教育における共通実践事項

～園・小・中で一貫した規範意識の醸成を目指す「三つのルール」～

大潟村連携教育では、村の全ての子どもたちが、居心地のよい場所で生活するために次の「三つのルール」を共通実践事項とし、規範意識の醸成を目指しています。

三つのルール

1. 人の話は最後まで聴く
2. 人の失敗を笑わない
3. 人の嫌がることをしない・言わない

規範意識とは

- ◎社会で必要とされるルールを守ろうとする意識
- ◎社会で求められるモラルを守ろうとする意識

2月末に行われた大潟村連携教育推進協議会と学校運営協議会全体会の合同会議の際に、来年度もこの「三つのルール」の基本理念をもとに各校園の実態に合わせて全職員で実践していくことが確認されました。

この「三つのルール」については、三校園、保護者、そして地域の三者が共通理解をして子どもたちへ言葉掛けをしていくことで、温かい、触れ合いのある学級、学校が形成されるのではないかと、という話題になりました。地域の皆さんも是非この三つのルールを意識しながら子どもたちを見守っていただければと思います。

今年度の各校園の取組について

～学校運営協議会委員からこんな意見がありました～

【学び】について

- ・0～3歳児の絵本の貸し出しが始まり、ありがたい。集団生活が始まることも園、今後も大事に保育を行ってほしい。(園)
- ・「自分の考えを話す力」が育ってきている。読書は様々なジャンルに挑戦してほしい。(小)
- ・ICTの研究指定は今年度で終了するが、継続して研究を進めていってほしい。ICTを活用する上で、視力や姿勢などの健康上の注意について配慮や指導をお願いしたい。(中)

【育ち】について

- ・バランスをとる、姿勢の維持のため、運動遊びにおいて意図的な遊びが必要だと思う。(園)
- ・地域でも十分あいさつをしている姿がある。ただあいさつをするだけでなく、相手が気持ちよいと感じるあいさつができるようになってほしい。(小)
- ・気持ちのよいあいさつをする生徒が増えた。地域の方々との会話、受け答えができる生徒が多い。しつけについて、学校と家庭、地域が共通理解のもと指導していきたい。(中)

【心】について

- ・ボランティアや小・中との交流を通してたくさん触れ合う機会がある。つながりを大事にしてコミュニティを広げていってほしい。(園)
- ・縦割り班活動は多様性を実践で学べる場になっている。様々な場面で子どもを見守りながら自信をもてるようにしてほしい。(小)
- ・異学年や地域の方々、他国の人々との交流で人との関わり方を学んでいる。様々な人との関わりを通して、開拓者精神を醸成するとともに、人と議論ができる人材を育成していきたい。(中)

学校運営協議会の皆様のご意見を参考に、令和6年度は、こんな園・学校を目指します

大潟こども園

【学び】意欲的に学ぶ(遊ぶ)環境づくり

- ・身近な環境に関わり、興味・関心を持ち、自発的・意欲的に遊ぶ。
- ・絵本に親しみ、言葉や表現力を育てる。

【育ち】健康で安全な生活を送るための手立て

- ・経験を重ねながら、ルールや約束ごとを守り、楽しく生活できるようにする。
- ・意図的な遊びを取り入れ、体力向上を図る。
- ・園内外で心地よいあいさつ運動を継続する。

【心】身近な人・もの・出来事との関わり

- ・園内外で出会う地域の方との交流を喜び、思いやりの心を育てる。
- ・いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを育てる。

大潟小学校

【学び】主体的に課題解決に取り組む子どもの育成

- ・自ら学んで、考えて、伝え合う授業づくり
- ・ICTを活用した学びを深める授業づくり

【育ち】規範意識の育成とあいさつ運動の推進

- ・学校・家庭・地域が連携して育む規範意識と「明るいあいさつ」
- ・学校行事や縦割り班活動で育む「自尊感情」「自己有用感」

【心】思いやりの心を醸成し感動と共生を生む教育活動の実施

- ・異年齢集団活動(園小、小中連携)の意図的・計画的実施
- ・家庭と連携した思いやりの心の醸成

大潟中学校

- 【学び】学力向上 ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善の継続 「問い」を立てる力、問題解決能力の育成

- 【育ち】地域に根ざしたキャリア教育の充実、国際交流の推進
- ・高い志 将来、大潟村で活躍できる生徒の育成

- 【心】全教育活動における意識的な道徳教育
- ・道徳科の授業の充実 思いやりの心、開拓者精神、郷土愛

